令和４年度　川口市社会教育委員会議　会議録

【開催日時】令和４年８月２４日（水）　１０時００分～１１時２２分

【会　　場】川口市役所第一本庁舎６０１大会議室

【会議経過】

１　開会

２　委嘱書交付

３　挨拶

川口市教育委員会教育長　茂呂　修平

・社会教育委員の皆さまには、日頃より本市の社会教育推進にご尽力を賜り、厚くお礼申し上げる。

・社会教育委員会議は、社会教育法に基づいて設置、開催される会議である。１５名の新たな委員に委嘱書を交付したが、社会教育委員の皆さまには住民と行政を結ぶパイプ役をお願いしたい。

・新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えない中、様々な課題を抱えながら教育行政を推し進めており、社会教育活動においても講座の開催に関して感染状況を鑑みながら実施している。

・その中でも、社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくりを止めることがないように、一部の講座を動画配信で実施するなど、いつでも、どこでも、自由に学ぶことができる仕組みを整備した。

・また、地域と学校とが連携・協働していく仕組みづくりが求められている中、本市では昨年度から「地域学校協働活動推進事業」をスタートさせた。

・委員の皆さまから、社会教育の方向性や可能性、地域と学校の連携・協働について、それぞれのお立場やご経験から多面的・多角的にご意見を賜り、今後の社会教育行政の推進に生かしていきたい。よろしくお願い申し上げる。

４　委員・事務局紹介

５　川口市社会教育委員会議の概要

６　議長の選任・挨拶

議長として平田委員が推薦され、選任された。

７　議事

公開の宣言

※事務局より、川口市附属機関等の会議公開に関する要綱に基づき、会議が公開であることを宣言した。また、公募の結果、傍聴人はいないことを報告した。

（１）令和４年度社会教育関係団体補助金交付について

事務局が資料に基づき説明した。

（事務局）令和４年度社会教育関係団体補助金交付承認について審議を求める。

（議　長）特に異議がないため承認とする。

（２）川口市の生涯学習に関する基本方針について

事務局が資料に基づき説明した。

（委　員）放課後子供教室のコーディネーターを担っている。地域と学校とが連携しながら運営をしているところである。

（委　員）講座、子ども大学かわぐち、インターネットを利用した講座の利用人数を教えてほしい。

（事務局）公民館講座は１５１講座実施し、延べ6,678人の参加があった。子ども大学かわぐちは５０名定員のところ１５０名の申し込みがあった。動画の視聴数は令和３年度では総視聴回数6,115回、令和４年度はこれまで総視聴回数614回である。

（委　員）子ども大学かわぐちは定員を超える申し込みがあったようだが、抽選をしたのか。

（事務局）抽選を行った。

（３）今後の生涯学習課事業について【意見交換】

事務局が資料に基づき説明した。

柱①「多様な生涯学習活動を推進していくために」

柱②「地域学校協働活動を推進していくために」

議長より、意見を委員に求めた。

（委　員）この４月に現任校に着任したばかりなので前任校の事例を紹介する。前任校では放課後子供教室の運営を地域人材が担っている。川口市の喫緊の課題が学力向上だったため、タブレットを活用した学習を放課後子供教室の主な活動としている。コーディネーターによると人材発掘は難しいが保護者に協力をいただくことが有効とのことだった。学校では働き方改革もあるため、放課後の学習支援は地域の方々に携わっていただけるとありがたい。子供に寄り添って「よくできたね」と声をかけていただけるとありがたい。こういう会議の場で発信していけば人材発掘につながるのではないだろうか。

（委　員）「地域の人に何かしてもらった」と実感している川口市の子供たちの割合は約４割という調査結果がある。「川口のあいうえお」の「う」が「植木」であることから、小学校の地域学習として植木の学習に携わっている。地域学習の協力者を募っているが難しい。市Ｐ連の会議で周知する必要があると感じた。また、ＳＮＳを使ったいじめ問題は学校だけでは対応が難しい。市Ｐ連に相談が来ることもある。保護者との連携が不可欠であると捉えているので、引き続き連携していきたい。

（委　員）県立高校の茶道部で講師を担っている。教職員とも連携を密にしながら部活動を進めている。

（委　員）公民館で俳句会「句楽会」として活動をしている。公民館では様々な団体が活動している。

（委　員）学校から支援してほしいと声があれば必要な人数を集める。遠慮せず町会等に声をか

けてほしい。

（委　員）草加市で美術の教員をしていたとき、草加市の生涯学習課から絵の講師の依頼があり、務めたことがある。昨年の社会教育委員会議をきっかけに放課後児童クラブでアルバイトをするようになった。地域と学校や先生方とのつながりが薄いと感じている。地域の実態把握が必要であると考える。

（委　員）コロナ禍で集まる活動は難しい。インクルーシブ教育は心の教育に成果が出ている。多様な学習機会の提供という方針があるとのことだが、状況はいかがか。

（事務局）学校では特別支援学級の設置が進んでいる。教職員の意識も高まっている。

（委　員）舎人公園には障がいのある子も遊べる設備がある。障がいのある子をもつ親御さんは障がいのない子をもつ親御さんの中に入ることに遠慮があると思う。一緒に遊べる設備があるとよい。

（委　員）今ある事業を大切にしてほしい。公民館に行けばパンフレットがあるが、新しい人につなげるために周知が大事。ショッピングモールにあるカルチャーセンターは賑わっている。人がたくさん集まる場所にポスターを掲示する等が効果的であると考える。子ども大学かわぐちの応募が多かったことから需要の高さがうかがえる。地域で子供に体験活動を提供できるとよいと考える。

（委　員）校長をしていた当時、学校応援団や放課後子供教室が始まった。十数年経った今、それらが根付いてきていることを感じた。コミュニティ・スクールが始まって何が変わったか等、地域の人々に理解していただくと更に広がっていくのではないか。

（委　員）川口市は生涯学習の推進が充実しているのではないだろうか。学力向上は学校に任せるとしても、子供の心のサポートを地域が担うということが地域学校協働活動の重要な役割なのではないかと考える。

８　閉会